

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県安芸郡熊野町立熊野第二小学校__ (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 7 3 2 - 4 2 1 2

広島県安芸郡熊野町初神三丁目 2 5 - 1

E-mail kuma02es@piano.ocn.ne.jp

Website <http://kuma0112.ec-net.jp/>

幼児児童生徒数 男子 46 名 女子 48 名 合計 94 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳 ~ 12 歳

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月 ~ 平成 3 0 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、地域との交流を通じた「ふるさと学習」を活動テーマとして取り組んでいる。

E S D を伝統文化の継承と捉え、E S D の実践を通してふるさとに伝わる伝統文化の良さを実感することが郷土愛・アイデンティティの育成につながると考え、ふるさとを愛し、自己を高め、共に学び合う子どもの育成を目標としている。

具体的には、総合的な学習の時間を柱に、①郷土の特産品「黒大豆」に係わる学習、②郷土の伝統的工芸品「熊野筆」に係わる学習、③地域防災に係わる学習、④郷土に係わる学習を行った。

さらに全校で地域行事と関連して取り組む伝統文化「銭太鼓」の継承活動を行った。

① 郷土の特産品「黒大豆」に係わる学習

第3学年の総合的な学習の時間では、地域の特産品「黒大豆」を育てる活動を通してその歴史を調べたり、それを活用した食文化に触れたりしながら一人一人が課題を見つけ、解決していく学習過程の中で批判的に考える力・多面的・総合的に考える力を育成してきた。

② 郷土の伝統的工芸品「熊野筆」に係わる学習

第4学年の総合的な学習の時間では、地域の伝統的工芸品「熊野筆」を伝統工芸士に直接指導してもらって作るという体験をする。それを発展させ、熊野町を他地域にPRしようとする活動を通してふるさとを愛し、人と人のつながりを尊重する態度を養ってきた。

③ 地域防災に係わる学習

第5学年の総合的な学習の時間では、熊野町が作成したハザードマップをもとに防災士等の指導を受けながら防災について自分たちができることは何かを考えながら学習を進めた。過去の災害を地域の人に聞いて情報を集めながら他者と協力する態度とこれからの未来に向けて予測して計画を立てる力を育成した。

④ 郷土に係わる学習

第6学年の総合的な学習の時間では、熊野町の歴史を知り、地域にあるものをさまざまな観点から調べ、熊野町検定をつくる学習を行った。情報を収集する中で、コミュニケーション力を高め、多面的・総合的に考える力を育成した。

⑤ 伝統文化の継承に関わる活動「銭太鼓」

学校全体では、運動会に銭太鼓を全学年で披露した。さらに地域のお祭りや行事などにも銭太鼓を披露し、地域行事に進んで参加する態度を養った。



① 黒大豆株式会社



② ふるさとPR大作戦



③ 伝えよう！広げよう！熊野防災の輪



⑤ 運動会での「銭太鼓」

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・ 熊野町ハザードマップ・ 熊野筆パンフレット・ 市町作成のパンフレット・ 副読本「わたしたちの熊野町」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールの活動は総合的な学習の時間に位置付け、環境省から出されている7つのESDの視点に立った学習活動で重視する能力・態度を年間指導計画の中に明記し、クロスカリキュラムを取り入れながら効果的な学習活動となるように努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD 担当教諭を定め、当該教諭を中心に従来行っていた活動をESDの観点で捉えなおし、総合的な学習の時間全体計画を作成している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

地域との連携については学校評価に上げており、学校経営計画にユネスコスクールを位置付けるなど地域や外部の方々にユネスコスクールとしての理解を図っているが、活動についてはよい評価をいただいているものの、ユネスコスクール自体の考え方を浸透させることは難しい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

総合的な学習の時間の取組は、他市町や地域とのつながりの中で成果を発信してきている。それぞれについては反響は大きく児童に学習の成果としてフィードバックできているが、ESD の活動として捉えられているかについては今後検討していく必要がある。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

筆まつり保存会や筆組合、町役場、防災士等と連携をとり学習を進めてきている。また銭太鼓の発表の場として東部福祉センター、敬老会等と連携している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現時点ではユネスコスクール連絡協議会の資料等で情報を集めているが、具体的な取組としてのネットワークについては今後の検討課題である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

これまでの活動を ESD の視点で捉えなおし、児童に付けたい力を意識して学習活動を進めていることで地域との連携をさらに強める学習活動が仕組めている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

現在の総合的な学習の時間を中心とした取組をさらに充実させ、これまでのネットワークを広げていくことでユネスコスクールとしての活動を進めていく。